

# 生活科における「主体的に学習に取り組む態度」の学習評価に関する研究 ～2020年度の新学習指導要領全面実施に向けての小学校現場への示唆～

最終更新日：令和2年9月17日  
【プロジェクト代表者】  
学校教育ユニット  
講師  
菅沼 敬介

## キーワード

・生活科 ・学習評価 ・主体的に学習に取り組む態度

## プロジェクトの内容（目的・方法・結果と意義）

### ① 研究の目的

初等教育から教育活動には、必ず目標（どんな児童にしたいか）とそれに対応する学習評価（どんな児童になったか）が存在する。学習評価は一見すると、学習の終末にワークシートを書かせたり、ペーパーテストをおこなったりすることであると思われがちである。しかし、平成29年告示の学習指導要領では、コンテンツ・ベースの学力観からコンピテンシー・ベースの学力観に様相を変え、学習によって育成された資質・能力を評価しなければならない。そのような現状を踏まえ、大幅に変化される2020年からの学習評価に対して現場への示唆を与えることを研究の目的とする。

### ② 研究の方法

1. 学習評価の今日的課題と今後の学習評価（児童生徒の学習評価の在り方について（報告）から）
2. 生活科のこれまでの学習評価と今後の学習評価の文献研究
3. 学習評価に関するインタビュー調査（小学校教育現場の10人に聞き取りへの調査）
4. 生活科の学習評価の在り方（「主体的に取り組む態度」の観点から）

### ③ 結果と意義

- 1) 授業中の子どもの見取りの充実
  - 2) 成果として表出しにくい部分の評価
  - 3) 生活科の学習評価の他教科への活用
- 本研究を通して、以上の3点が明らかになった。

## 成果の応用可能性（私たちの活動の成果は、このような分野にこのように貢献することができます。）

本研究の成果が、小学校学習現場へ今後の学習評価の示唆を与えることができます。

### 成果1) 授業中の子どもの見取りの充実

2020年度からの学習評価において、最も大きく意識変革する部分として、「ペーパーテスト」から「子どもの見取り」への変革が挙げられる。「子どもの見取り」と言ってもイメージしづらい。そこで、新設当時から、「子どもの見取り」を中心として資質・能力を評価してきた生活科の学習評価の活動をモデルとできます。

### 成果2) 成果として表出しにくい部分の評価

成果として表出しにくい部分とは、いったいどんな部分なのか、過去の生活科の学習評価の蓄積から提示します。ここには、ペーパーテストで測られる知識・技能はもとより、ワークシートや作品等、成果が表出する部分以外を大切に扱います。具体的には、成果が表れる過程、活動中のつぶやきや表情、成果を生かした学習活動や生活に着目できます。

### 成果3) 生活科の学習評価の他教科への活用

生活科の教科の特質として、教科等横断的であることが挙げられます。そこで、生活科と他教科とのかかわりを見る中で生活科で学習したことを他教科等で活用したり、他教科等で学習したことを生活科で活用したり双方向的な学びに着目できます。

## このプロジェクトの形成に寄与した制度等

平成31年度科研費獲得推進支援プロジェクト

## プロジェクト構成員（所属・職名・氏名・役割分担）

学校教育ユニット 講師 菅沼 敬介  
・プロジェクト研究全般、計画、マネジメント、授業実践参観等  
・小学校教育現場の教員へのインタビュー調査  
・成果のまとめ執筆。  
教育学研究科 非常勤講師 津川 裕  
・生活科の学習評価の先行研究分析  
教育学部 非常勤講師 福重 秀人  
・小学校教育現場の教員へのインタビュー調査（予備）